

2019年3月期 決算概況

2019年5月10日

2019年3月期 期末決算概況

- 営業収益、営業利益、当期利益のすべてについて、通期業績予想を達成。
また、中期業績目標の営業利益（日本基準300億円）も達成
- 物件売却等の一過性の影響を除くベースでは増収増益と着実に成長

(単位：億円)

	2018年3月期 通期実績 (IFRS) ①	2019年3月期 通期実績 (IFRS) ②	対前期 増減 ③：②－①	2019年3月期 通期業績予想 (IFRS) ④	対業績予想 増減 ⑤：②－④	(参考) 2019年3月期 通期実績*3 (日本基準)
営業収益 ＜ベース営業収益＞*2	1,606 <1,571>	1,680 <1,680>	+73 <+108>	1,675 <1,642>	+5 <+38>	1,691 <1,678>
営業費用 ＜ベース営業費用＞*2	1,327 <1,295>	1,404 <1,386>	+76 <+90>	1,379 <1,346>	+25 <+40>	1,375 <1,374>
その他の営業損益等 ＜ベースその他の営業損益等＞*2	25 <2>	10 <14>	▲14 <+11>	▲16 <0>	+26 <+14>	—
営業利益 ＜ベース営業利益＞*2	304 <279>	286 <308>	▲17 <+29>	280 <295>	+6 <+13>	315 <304>
親会社の所有者に 帰属する当期利益	181	161	▲20	160	+1	176
投資額	634	462	▲171	680	▲217	450

*1 2019年3月期よりIFRSを適用。2018年3月期はIFRSに準拠して算定

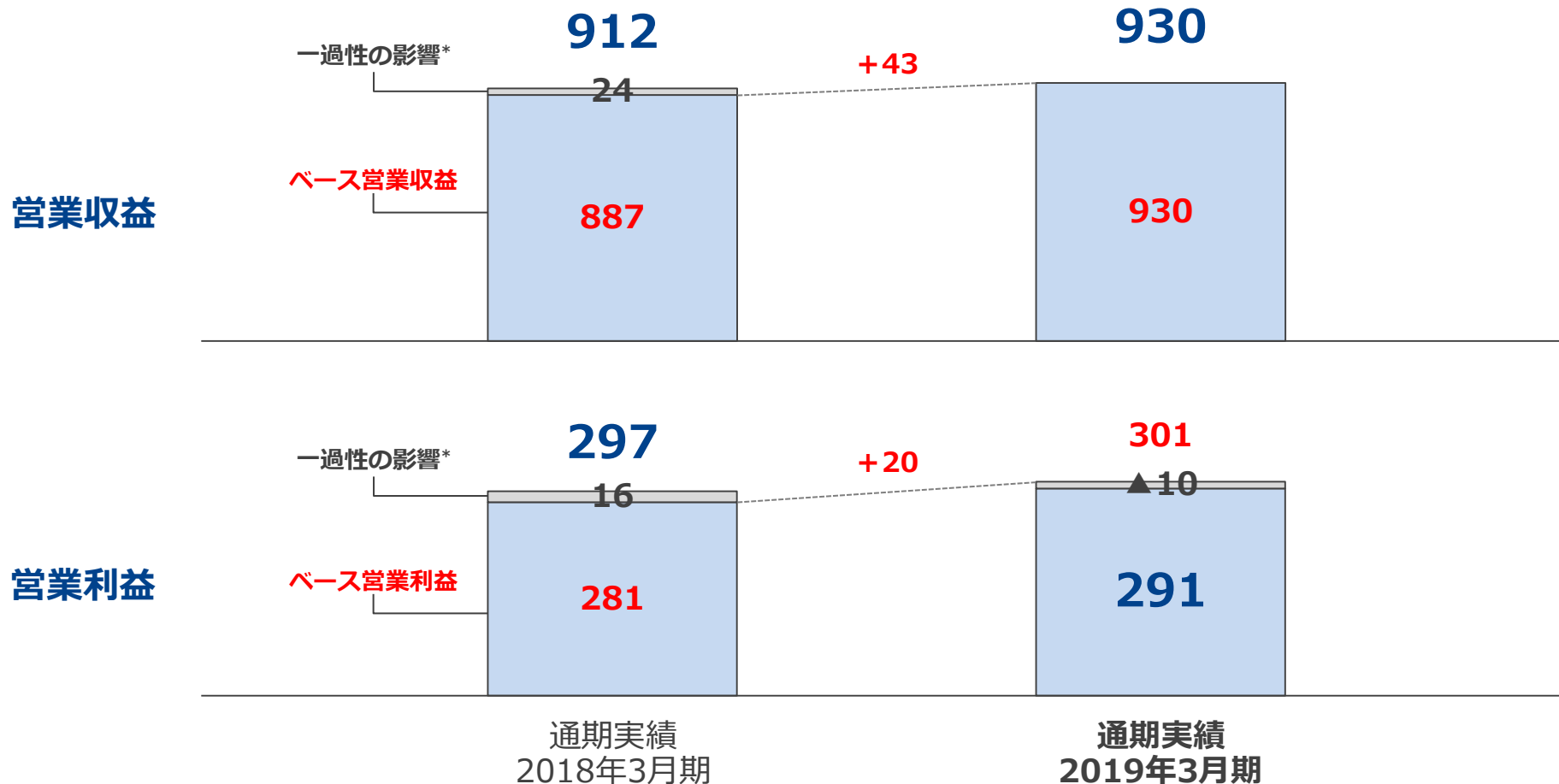
*2 一過性の影響（物件売却、市街地再開発事業における補償金、転貸事業損失引当金、日本基準における特別損益）を除く

*3 非監査の参考値

オフィス・商業事業 営業収益・営業利益

- 大手町プレイス等の新規物件が寄与したほか、秋葉原UDX等の既存物件が堅調に賃料収入を拡大し、一過性の影響を除くベースでは増収増益

(単位：億円)

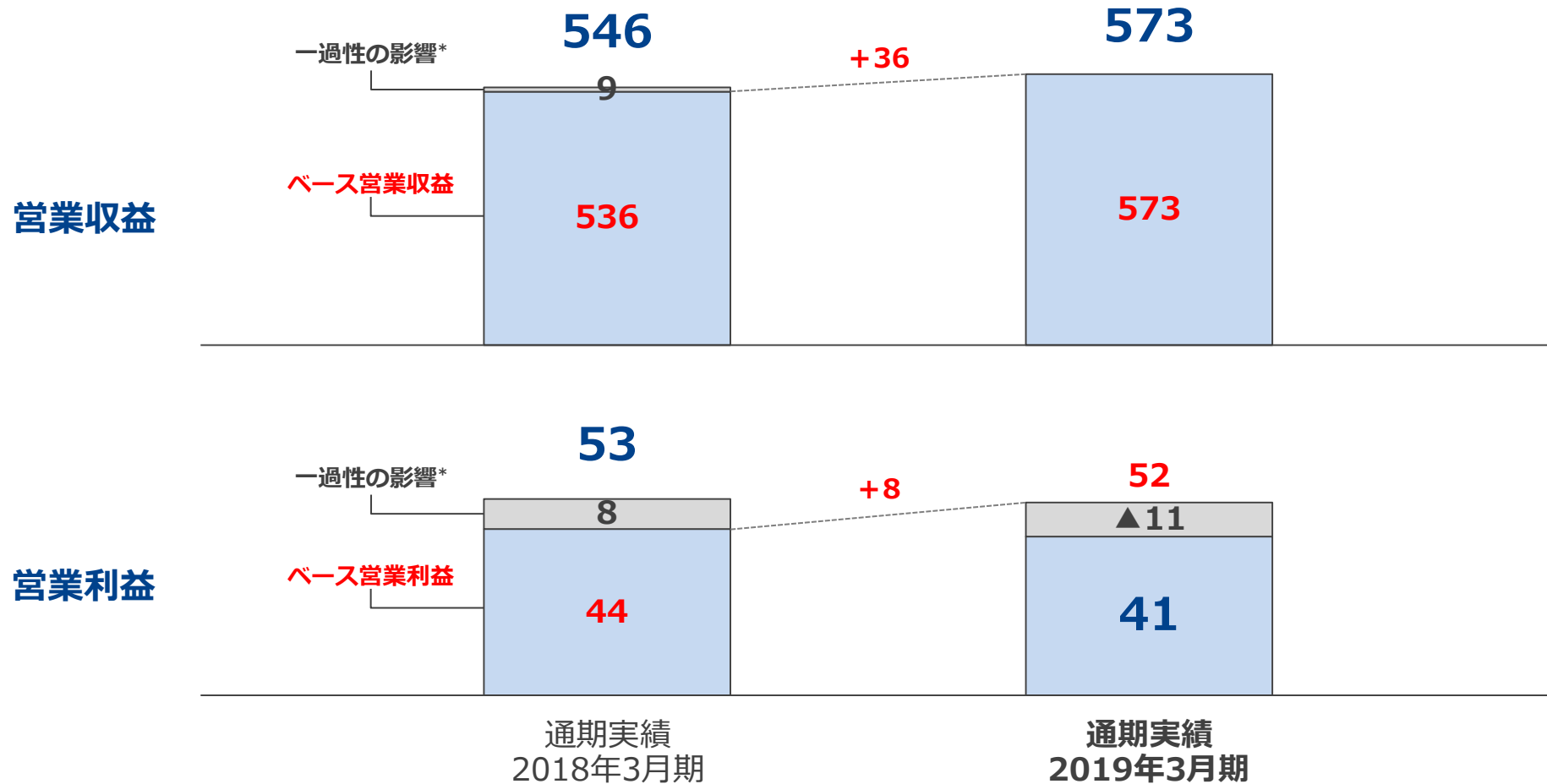


* 物件売却、市街地再開発事業における補償金、転貸事業損失引当金、日本基準における特別損失

住宅事業 営業収益・営業利益

- 住宅販売が堅調に推移したことから、一過性の影響を除くベースでは増収増益

(単位：億円)



* 物件売却、日本基準における特別損失

ディスクレームー



NTT都市開発

本資料における情報の掲載は、投資勧誘を目的にしたものではありません。
情報に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆さまご自身のご判断で行うようお願いいたします。

特に断りのない場合、本資料はIFRS（国際会計基準）に基づいて作成しております。